

# 室蘭工業大学ロールモデル集：



# 大学院を修了した先輩 11 名からあなたへ贈るメッセージ



室蘭工業大学ロールモデル集

大学院を修了した先輩11名から  
あなたへ贈るメッセージ

男女共同参画推進室 女性研究者支援ユニット

## 学長あいさつ

「室蘭工業大学ロールモデル集：大学院を修了した先輩11名からあなたへ贈るメッセージ」をお届けします。

本学に2014年度に入学した学部1年生の女子学生率は12%(75名)、大学院博士前期課程では、10%(20名)、博士後期課程では14%(3名)であり、工業大学であることを割り引いても、小さな数字です。しかしながら、キャンパスでは数字以上に女子学生の活躍が目立ち、その一つのロールモデルともなる女性教職員の数も、本学全体で取り組んでいる男女共同参画事業の推進により着実に増加しています。

今後は女子学生の皆さんの出口、就職分野を広げていくことが課題と捉えています。本パンフレットも、ぜひ皆さんが自身の将来を考える際のきっかけにしてください。少子高齢化が進む我が国においては、女性が活躍する分野はこれまで以上に広がります。本学の第一のミッションである主体性のある高度な科学技術者を育てることにしても、女子学生の皆さんがより重要な存在となり、皆さんの活躍がこれからの日本の社会、産業の発展には欠かせません。本学も様々な観点から、大学をあげて皆さんを育て、活躍できる環境を提供していきます。



Y.さん 学部4年で公務員試験を受験したが採用されず、再度受験することを考えた際、大学院へ進学して専門性を習得することが合格への近道だと感じました。

大野さん そんなに大きな目標があり進学したかというところでなく、技術者になるためには大学院への進学がもう(当時でも)普通だろうと感じたこと、学部の1年間だけではなく研究をもう少し続けたいと考えたのが理由です。

MS.さん 単純に研究室配属が1年というのには短く感じました。研究室の院生を見て、私も院に進学して、もっと勉強したいと思ったことがきっかけです。当時はアトリエ系の就職を考えており、院に進学するのが当然という流れがあった。また、4年生の時は就職氷河期で、2年たてば変わるかも、という期待もあった。

CK.さん 就職先の幅が広がったから。  
-公務員試験がなかったから。  
-研究が楽しくなってきたから。

大野さん 学部3年生の時の講義および実験を通して、高電圧工学に興味を持ち、修士課程まで進んで、より深く知識を得たいと思ったことがきっかけです。また、技術者として男性と同様に定年まで働きたいという思いも大学院に進学した理由の一つです。

MS.さん 学部では微生物系の研究室に所属していましたが、そこでは微生物を用いて世の中の化学物質を分解するという研究を行いました。非常に意義のある研究でしたが、有効な微生物を見つけ物質を分解するは作り出すことよりも、「化学合成」にて人々の役に立つ物質を設計したいという思いの方が大学院へ進学しました。

大野さん 最初は外国人研究生として勉強していましたが、もっと勉強したいと思って、修士課程に進みました。その後、修士で勉強してきた分野について専門知識を深めた博士課程に進学しました。

### Question 1

## きっかけ

OGのみ さんが  
大学院へ進学 しようと思った  
理由やきっかけは?

大野さん 学部3年生の時の講義および実験を通して、高電圧工学に興味を持ち、修士課程まで進んで、より深く知識を得たいと思ったことがきっかけです。また、技術者として男性と同様に定年まで働きたいという思いも大学院に進学した理由の一つです。

### Question 2

## 良かったこと

実際に大学院 に進学してみて、良かったと思うことはどんなことでしょうか?

MS.さん 2年間のうちで、学部時代よりも更に密度の高い時間を過ごせました。進学したという思いも、就職活動を持つ天然物を有機合成にて作り出すという研究に関わることで研べることができました。

大野さん 大学院での勉強は大学生と違い、自ら勉強を進めることになります。もちろん指導教官の教えもありますが、自分で考えること、他の参考文献を調べて理解すること、課題の解決方法を考えることなど、問題を解決する能力が身に付きました。

CK.さん 大学院2年間は、結構勉強が出来たと思う。研究が楽しかったが、今の会社で大きな時、あの時やたらとまだ頑張れるという経験が出来た。  
-良い仲間に出会った。

大野さん 将来について考える時間を持てたこと。院の2年間で設計コンペに挑戦したり、設計事務所でのオープンデスクへの参加ができたこと。この2年間で、自分は何をしたいのか、どのような道に進みたいのか、ということを考えることができた。だからこそ、今も新卒で入社した会社で働いて、違う道に行けばよかったと後悔したことはありません。(早く辞めたくなかったことあります)

MS.さん 学会で発表する経験を得られたこと。  
-TAをやって学部生に教える立場を経験できたこと。  
-研究期間の研究も近くで見られたので、自分の研究以外の分野の視野も広がったこと。  
-大学院の試験の勉強をしたこと。(大学受験より勉強した)

大野さん 学会発表を通して、技術論文作成やプレゼンテーションを多く経験したことで、これらについての技術やノウハウを得ることができました。これらの知識やノウハウは、就職後に大役で立っています。また、自然とした回答になってしまいがちな大学院で選んだことで「視野」が広がった気がします。

MS.さん 大学院で学んだことが、今でも役に立っています。印刷会社に入社し、印刷工程を担当させてもらえたのはとてもラッキーなことだと思います。世界的に見ても日本の印刷技術はトップクラスなので、技術員としてその印刷技術を習得しようと思うとモチベーションが上がります。また、デザイン印刷～商品になるまでの色を操る仕事は、難しいですがとても楽しいです。自分が色を作った製品が世の中に流通しているのを見ると、嬉しくなります。

大野さん 今年入社1年目ですが、入社当時は新築マンションの販売、2年目から4年目はマンションの現地仕入れ、5年目から9年目は新築マンションの施工管理(事業主としての検査や現場管理を行う)、10年目～新築マンションの商品企画をやっています。総合職で入社しているの、最初は全く建築系ではありませんでした。しかし、その部署で努力し、結果を出せば自分の希望職種になれるのかな、と感じました。住宅購入という一生に一度の買い物であることが多いに携わる仕事なので、やりがいがあります。施工管理のことは、設計事務所・ゼネコと打ち合わせを兼ね、新しい工期中、無事竣工させ、お客様に際なく引き渡したときの喜びは大きかったです。現在は、自分が提案した企画が、物件に採用され、名前が付き、商品の口ができて、広告に掲載と、すごく嬉しいです。建築に関わっていることで、仕事も変わります。形に残る仕事をする分、責任も大きいです。やりがいを感じています。

MS.さん 現在所属している研究室は物理化学という今まで行ってきかた研究とは異なる分野です。仕事内容は実験の補助として試料の測定や、必要な化合物の合成などを行っています。化学の新たな一面に触れることができ、とても貴重な体験をさせてもらっています。

# 学生のみなさま キャリア計画に きっとお役にたちます 男子学生もぜひどうぞ 2015年4月発行

男女共同参画推進室  
Office for Promotion of Gender Equality

## 女性研究者 支援ユニット

Unit for Female Researchers

